

## ケアマネジャーのお仕事サポート

テーマ

### ケアマネジメントの標準化

今回は、「適切なケアマネジメント手法」(以下「適ケア」)の理解を深め活用するために角度を変えて考えてみたいと思います。

今求められているのは

ケアプランの標準化ではない  
ケアマネジメントの標準化である

ケアプランは一人一人に個別的であり、ニーズや具体的な支援内容など、極めて多様・多彩であり、かつ定性的な情報となるため、少なくとも現時点では、ケアプランの標準化は困難だと思います。

ケアマネジメントの標準化が目指しているのは、誰が担当介護支援専門員(ケアマネジャー)となっても、利用者から見て一定の水準のマネジメントを提供できるようになることです。

これからのケアマネジメントに特に期待されることは以下の通り。

① 本人や家族の支援(相談援助と意思決定支援)

② その人に合った、その人らしい暮らしの実現

左記を

③ 実現するための環境づくり  
多職種連携



とはいっても、、、こちらが現状と思います。

地域の資源には、  
限りがある

ご本人が望む暮らしを実現し、継続  
するために、何ができるのか?

介護給付サービスで対応できれば  
良いけどそうもいかない……

まず、どのような状況に対し、どのような支援内容が有効かを考えてみましょう。

6月号の図1をご覧ください。

一般的な手法は、アセスメントのあとに“サービス種別”の検討がされ、そのあとに支援内容の具体化になっています。

適ケアは、まず、知見に基づいた、支援内容レベルの仮説を持ち、その検証と並行して支援内容を具体化する考え方。“サービス種別ありき”にならず必要な支援内容が検討されやすく、検討に必要な時間も短縮できる可能性があります。

## 一般化と個別化の違いは（図1）

適切なケアマネジメント手法が目指しているのは、状態に応じて必要性が高いと考えられる支援内容を押し入れられるようにすること。あくまでも**想定される支援**です。あくまでも「想定される支援」なので、どの支援が、どの程度必要かの判断は要介護高齢者一人一人異なります。また、同じような支援内容でもその人に合わせたやり方に工夫する余地があります。これが**個別化**です。

改めて

「適ケア」は、ケアマネジャーが“あたり”を付けるために必要な知識を体系的に整理したものであり、これを活用してより具体的、個別的な情報の収集・共有をより丁寧に実施する考え方/方法です。知識の体系には、「想定される支援内容」とその概要・必要性、検討のためにアセスメント/モニタリングで収集すべき情報項目、が含まれます。

（図2）

状態に応じて必要となる可能性を検討すべき「想定される支援内容」（＝仮説、“あたり”）、その必要性や重要性などを判断するために収集すべき情報項目（アセスメント/モニタリング項目）が含まれます。

「想定される支援内容」の概要とともに、なぜ必要なのかも整理されているので、理解を深める際のガイドにしていきたいのです。（図3）

図1

## 一般化と個別化の違い

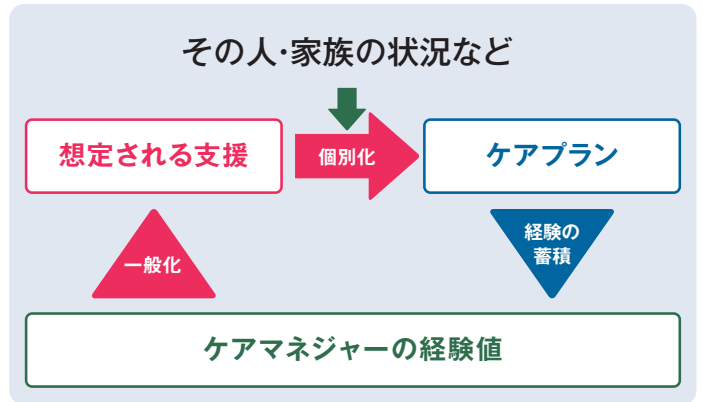


図2

## 適切なケアマネジメント手法の内容

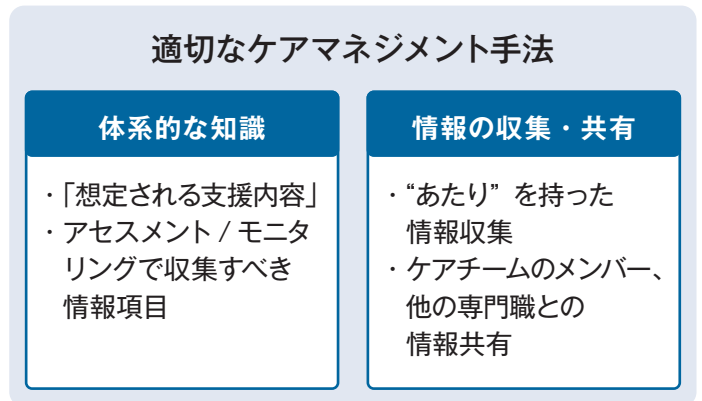
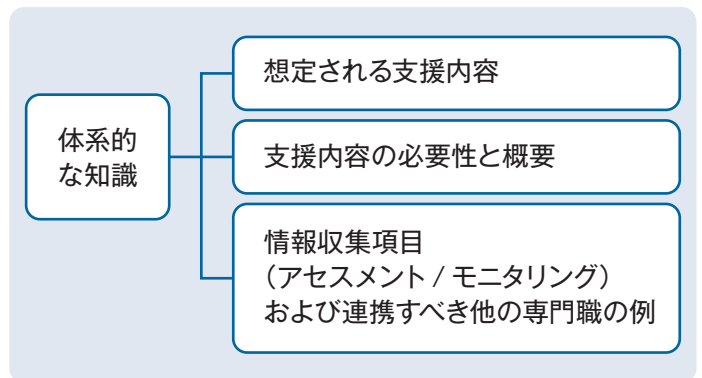


図3

## 体系的な知識に含まれるもの



執筆者

**木村隆次** きむらりゅうじ

薬剤師

介護支援専門員

介護支援専門員指導者一期生

医療・介護連携協働をライフワークに活動中。大学卒業後、製薬会社のMRとして勤務した後、青森市内で薬局を開局。薬剤師として居宅訪問をしていた際、福祉用具と住宅改修に興味をもち没頭。介護支援専門員指導者の一期生。2000年4月から13年間日本薬剤師会常務理事、2010年から2022年まで青森県薬剤師会会長を務めた。2005年11月から日本介護支援専門員協会会長（初代）として厚生労働大臣の諮問機関で介護報酬や介護保険制度を議論する分科会・部会の委員を歴任。現在は、青森県介護支援専門員協会会長として自立支援型ケアマネジメントの普及のため後進へ情報発信し育成に努めている。